



〈連載⑤〉

## ふじ丸の瀬戸内海クルーズ



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

3月下旬に、商船三井客船のクルーズ客船「ふじ丸」による1泊2日の瀬戸内海クルーズが神戸起点で行なわれた。

このクルーズはJTBの創業80周年特別企画として行なわれたものであるが、このクルーズ実施の情報に接して大変興味をもった。その理由はいくつかある。ひとつは1泊2日という大変短いクルーズであること。北米カリブ海などのクルーズのメッカにおいても短期クルーズが現在急速に伸びており、またバルト海などのクルーズも1～3泊のものが主流となっている。2つ目は料金が大変安かったこと。リーズナブルプライスが北米やバルト海のクルーズ市場拡大の原動力であることはたびあるごとに指摘しているが、日本のクルーズ客船ではなかなか実現できてこなかった点である。この瀬戸内海クルーズは4人部屋使用で18,000円からというまさにリーズナブルプライスを実現した画期的な企画であった。3つ目は旅行代理店の企画であること。いわゆる船旅のプロとも言える一部の愛好家だけを相手にしては日本のクルーズ市場の大きな拡大は望めない。一般大衆と常に接している旅行代理店の活用、すなわち旅行代理店にクルーズという商品に本格的に取り組んでもらうことがどうしても必要な状況になっ

ている。最後が瀬戸内海クルーズであること。日本の近海は海が荒く、船酔いの心配が常に付きまとう。日本で唯一クルーズに適しているのは、瀬戸内海であると考えていた筆者にとって、まさにそれを実証できるよい機会であった。こうした理由により、日本のクルーズのありかたのモデルケースにもなりそうなこのクルーズにさっそく申し込むことにした。

これだけ 筆者の主張するクルーズの理想像に近い企画はめったにない。筆者の船仲間たちもきっと乗りたいに違いないと感じたので、JTBの中でクルーズに入れ込んでいる情報企画室のK嬢に頼んでキャビンを押えてもらい、さっそく仲間に案内のハガキを出した。平日のクルーズにも関わらず、ハガキを出した3日目からは続々と申込みの電話が入り、あっという間に40名を突破。K嬢に状況を電話で報告すると、なかなか人気を呼んでおり売れ行き好調なのだが、食事をワンシティングでサービスする関係上申込みの受け付けを止めて欲しいとのこと。その後は、申込みの電話に断る日々が続いた。こうして結局42名の船仲間とクルーズを楽しむこととなった。神戸に事務局のある海事懇話会関西支部という船旅ファ

ンの会も30名近い人を集めたというから、関西の船ファンで70名強の乗客を集めたこととなる。以前、関西汽船がクルーズ客船さんふらわあ7を運航していた頃、筆者の主催する会と神戸のこの会で百数十名の乗客を集めたことをふっと思いだした。条件が整いさえすれば日本でもクルーズ市場の爆発的拡大も在り得るという予感も感ぜられた。

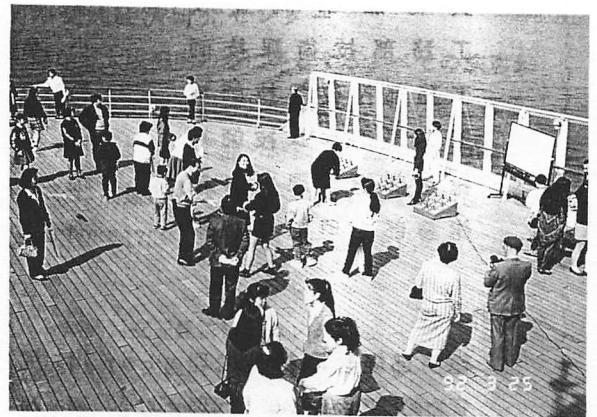
**高い日本の**クルーズをどちらかといえば敬遠して、価格の安い海外のクルーズを中心に乘っていた筆者にとって、今回のクルーズの内容は驚くほどのものであった。もともと、食事には定評のある船だが、サービスのグレードも以前に比べ格段に高くなってる。フィリピン人のサービスクルーをかなりの数乗船させているが、そのサービス精神がなかなかである。日本人クルーにもその人数の多さから来る余裕と、フィリピン人クルーをリードしながら少しでも良いサービスを提供しようという心意気がかなり感ぜられた。以前、少ない人数のサービスクルーで、あらゆる仕事をこなし、疲れきって微笑みも少なくなっていた頃と較べると雲泥の差である。

この短いクルーズの間の催物も盛り沢山であった。乗船してすぐのコンサート付のアフタヌーンティ、出港時のシャンペンサービス、ウェルカムパーティ、フランス料理のフルコースディナー、カジノ、ショー、夜食と続き、翌朝はモーニングコーヒー、フィットネス、朝食、ワインテースティング、ファッションショー、ブリッジ見学、デッキランチと下船する直前まで多彩なイベントが溢れていた。とても退屈などしてられない。しかし退屈することもできる、という現代クルーズのやりかたがしっかりと定着しているのが印象

深かった。ただ、バーなどが12時には閉ってしまふのは一寸残念であった。

**これだけの**サービスが今回のこの料金で本当に可能なのであろうか。乗船客数は350名強と見られるから全売上で1千万円程度であらうか。たぶんうまくいってもぎりぎりの採算であらうことは予想できるが、食事を2回のシットイングにして乗客数を定員近くまで増やせば、この程度の料金設定が日本でも可能なのではなからうか。アメリカ水域のクルーズ客船であればこのくらいの大きさの客船であれば、乗客定員を2人部屋ベースで600~800名は取っている。この程度のキャパシティで常に70%以上の乗船率を維持できているからこそ、料金をリーズナブルに押えることができています。このような一般クルーズに、研修目的も兼ねる「ふじ丸」の構造はやや無理な作りになっていることも否めない。しかしである。今回の瀬戸内海クルーズは筆者にとって「日本のクルーズもようやくここまで来た」という意味で極めて印象的なものであった。

このクルーズにいいよ日本にも大衆を巻き込んだ本格的なクルーズブーム到来の兆しを見たように思った。



ふじ丸のデッキでスポーツを楽しむ乗客たち